

【大多喜町】1人1台端末の利活用に係る計画

(1) 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

世の中全体のデジタル化、オンライン化が大きく進展しているなか、これからの学校は、ICT を最大限活用することで「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくことが求められています。

児童生徒が、何が重要かを主体的に考え、他者と協働し、新たな価値を創造するために必要な情報活用能力を育成します。そのために1人1台端末をはじめとする ICT 環境を積極的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。その際に、一斉授業か個別学習か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった「二項対立」に陥ることなく、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていく必要があると考えています。

(2) GIGA 第1期の総括

平成30年度より順次 ICT 環境の整備を進め、令和3年度には1人1台タブレット端末の使用を開始し、併せて小中学校に無線環境設備を整備しました。

また、令和3年10月から令和5年3月までは GIGA スクールサポーターを各校に配置し、教職員や児童生徒の学習活動のサポートを行ってきました。

このように、ICT 環境の整備を進めてきましたが、現在低学年が使用しているタブレットは、本町で導入前に千葉工大で4年間使用されていたものであり、既に OS のアップデートもできない状態であるため、不具合や使いづらい場面が多いことも、使用を敬遠させる要因になっていると思われます。

また、学校や教員間でも、端末の操作方法等の習熟度に差があり、授業の交流時などに有効に活用できなかったりすることがあります。

児童生徒の学びを止めないためにも、GIGA 第2期においては、更に1人1台端末の利活用を推進し、次世代を生きる児童生徒の育成を図ります。

(3) 1人1台端末の利活用方策

新時代を担う児童生徒を育む取組として、学習活動における ICT 活用機会の創出があります。学習プロセスにおいて、ICT を活用する場面はたくさんあります。児童生徒が自らの考えで、目的や場面に合わせて ICT を使い分けて効果的に活用し、課題を発見・解決する力を育成します。

また、学習ソフトの活用促進として、デジタル教科書をさらに活用します。デジタル教科書は、学習者が自分のペースで学習を進められ、個に応じた効果的な学習が可能となるため、より実践的な活用を図ります。

学びの保障の面では、文部科学省の「児童生徒の自殺予防に係る取組について(通知)」及び「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLO プラン)」に記載されているとおり、1人1台端末を活用し、心や体調の変化を早期発見する取組が広がっています。

本町においても、こうした動向を踏まえ、GIGA 第2期では、日常の授業で端末をより効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で ICT を活用していきます。

以上の取組を実施するためには、1人1台端末が必要不可欠です。端末の整備及び更新により、1人1台端末環境を引き続き維持し、利活用にあたっては、次頁の指標及び目標を達成できるよう取り組みます。

「教育 DX に係る当面の KPI」に示している KPI にもとづく現状と目標

項目	KPI	現状値(年度)	目標値(年度)
1人1台端末の整備	指導者用端末整備済みの率	100%(R6)	現状維持
	1人1台端末を常時活用ができるよう、十分な予備機を整備しているか。	100%(R6)	現状維持
ネットワークの改善	無線 LAN 又は移動通信システムによりインターネット接続を行う普及教室の率	93.8%(R6)	100%(R9)
	端末利用に係る回線の速度を計測・把握した学校の率	100%(R6)	現状維持
	必要なネットワーク速度を確保済みの学校の率	33.3%(R6)	100%(R8)
校務のデジタル化	FAX でのやり取り・押印を原則廃止した学校の率	0%(R6)	100%(R9)
	校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一掃した学校の率	0%(R6)	100%(R8)
	クラウド環境を活用した校務DXを積極的に推進している学校の率	33.3%(R6)	100%(R8)
1人1台端末の積極的活用	毎年度 ICT 研修を受講する教員の率	100%(R6)	現状維持
	情報通信技術支援員(ICT 支援員)の配置	0%(R6)	検討
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	100%(R6)	現状維持
	デジタル教科書を実践的に活用している学校の率	100%(R6)	現状維持
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	100%(R6)	現状維持
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	100%(R6)	現状維持
	教員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	66.6%(R6)	100%(R7)
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	66.6%(R6)	100%(R7)

	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	100% (R6)	現状維持
学びの保障	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加・視聴の機会を提供している学校の率	100% (R6)	現状維持
	希望する児童生徒へ端末を活用した教育相談を実施している学校の率	66.6% (R6)	100% (R7)
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に端末を活用している学校の率		
	障害のある児童生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用した支援を実施している学校の率	66.6% (R6)	100% (R7)